

## 「議員の定数と報酬のあり方」検討に係る項目別基本事項

NO	項 目	現 状	背景・経過・根拠・論点	参 考
1	常任委員数 (委員会構成人数)	8人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議会が十分な議論を安定的に確保できる人数（議論成立の適正人数）</li> <li>・1委員会：7～8名（賛成3人+反対3人+委員長+議長=8人）</li> <li>・複数所属はしない（単一委員会への専念、制度としては複数所属は可）</li> </ul>	資料4-4 (P1)
2	委員会数 (常任委員会数)	2委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委員会数（3→2）（H27～）</li> <li>・根拠は常任委員会の構成人数（「1 委員会構成人数」参照）</li> </ul>	資料4-4 (P1)
3	議員定数	16人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律に定数の定めなし。自治体の自己決定（H23～）</li> <li>・根拠は常任委員会の構成人数（「1 委員会構成人数」参照）</li> </ul>	資料4-4 (P2)
4	政務活動費	なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条例制定要（用途：研修参加費、調査研究費、広報広聴費、資料費等）</li> </ul>	資料4-4(P3)
5	費用弁償	条 例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の公職と整合（教育委員、農業委員、監査委員等各種行政委員会委員）</li> <li>・制度の内訳は応召旅費（会議出席に要する費用の弁償）と出張旅費</li> </ul>	資料4-4 (P4)
6	報酬／期末手当	原価方式 (積上方式)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議員活動日数（公務・公務外）及び首長活動日数・給料を算出する。</li> <li>・首長活動日数：首長給料＝議員活動日数（7.75h/日）：議員報酬</li> <li>・期末手当＝報酬年額－報酬月額とし、条例で規定する。</li> <li>・議員活動日数は、個々の実績（公務・公務外含）を平均化する方式。</li> <li>・報酬区分は議長・副議長・委員長・議員の4区分</li> </ul>	資料4-4 (P5-11)